

「研究データ利活用協議会」キックオフミーティング
2016年7月25日

国立国会図書館の取組

～知識インフラの深化～

国立国会図書館電子情報部
伊東敦子

なぜ国立国会図書館が参加するのか？

JaLCの共同運営機関だから ？

研究データへのDOI登録実験プロジェクトに参加してなかったけど、関心があったの？

研究データを所蔵している ？

国立国会図書館は今！

「深化型知識インフラ」の実現を目指して取り組む

国のデジタルアーカイブ連携を目指して取り組む

その基となる計画として…

第四期国立国会図書館科学技術情報整備基本計画

平成28年度から平成32年度までを対象に、平成28年3月に策定した計画。第三期計画において国立国会図書館が構築に積極的に関与することとした国全体としての新しい学術情報基盤である「知識インフラ」について、他機関との連携・協力の下、その深化を図ることを目的としています。国立国会図書館が取り組むべき事項として、次の項目を掲げています。

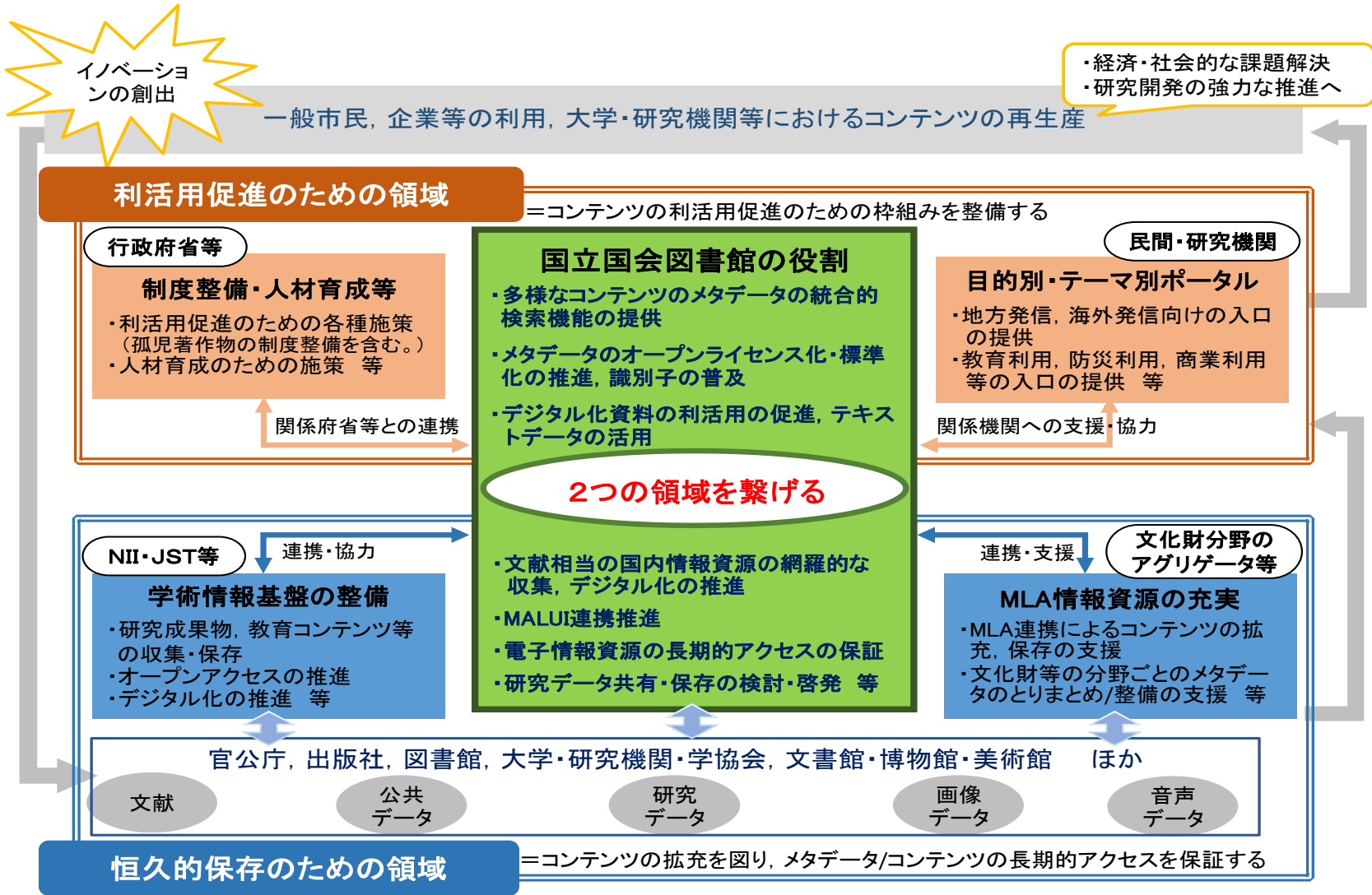
恒久的保存のための取組

- ・ 学術情報を始めとする情報資源の収集とデジタル化
- ・ 関係機関との連携の推進
- ・ 電子情報資源の長期的アクセスの保証
- ・ オープンサイエンスにおいて果たすべき役割
- ・ 図書館界のアグリゲータとしての役割

利活用促進のための取組

- ・ 多様なコンテンツのメタデータの統合的検索機能の提供
- ・ メタデータの標準化・オープンライセンス化の促進
- ・ 目的別・テーマ別ポータルへの提供への協力
- ・ コンテンツを利用しやすくするための制度整備
- ・ 国立国会図書館のデジタル情報資源の利活用の促進
- ・ 国立国会図書館が作成するデータのオープン化

国立国会図書館の役割





国立国会図書館サーチ

これからは！

国内の各機関が持つ豊富な「知」を活用するための
アクセスポイントとなることを目指す

紙・デジタル媒体等の様々な形態の
情報資源を統合的に検索
検索可能なメタデータは1億件以上
検索可能なデータベースは約100
現在、検索できる機関は



- 国立国会図書館**
- ・NDL-OPAC
 - ・国立国会図書館デジタルコレクション
 - ・インターネット資料収集保存事業 (WARP)
 - ・総合目録ネットワーク(ゆにかねっと)
 - ・レファレンス協同データベース
 - ・リサーチ・ナビ

- 博物館・美術館・公文書館**
- ・e国宝
 - ・国立美術館所蔵作品総合目録検索システム
 - ・国立公文書館デジタルアーカイブ
- 公共図書館・大学図書館デジタルアーカイブ**
- ・約40のデジタルアーカイブが検索可能

- 学術情報機関**
- ・CiNii Articles
 - ・CiNii Books
 - ・JAIRO
 - ・J-STAGE
 - ・人間文化研究機構統合検索システム

- その他**
- ・Japan Knowledge
 - ・JPO出版情報登録センター
 - ・青空文庫
- 海外図書館**
- ・Dibrary (韓国国立中央図書館)

もっと増やしたい
<http://iss.ndl.go.jp/>

「国立国会図書館サーチ」に加えて 「ジャパンサーチ（仮称）」の実現へ！

国立国会図書館サーチ

NDL-DB内の統合ポータル

= NDL-OPAC、リサーチ・ナビ、NDLデジタルコレクション等をまとめてサーチ
+ 本文検索サービスの提供

書籍等分野のアグリゲーター

= 総合目録ゆにかねっと、CiNii、J-STAGE等との連携

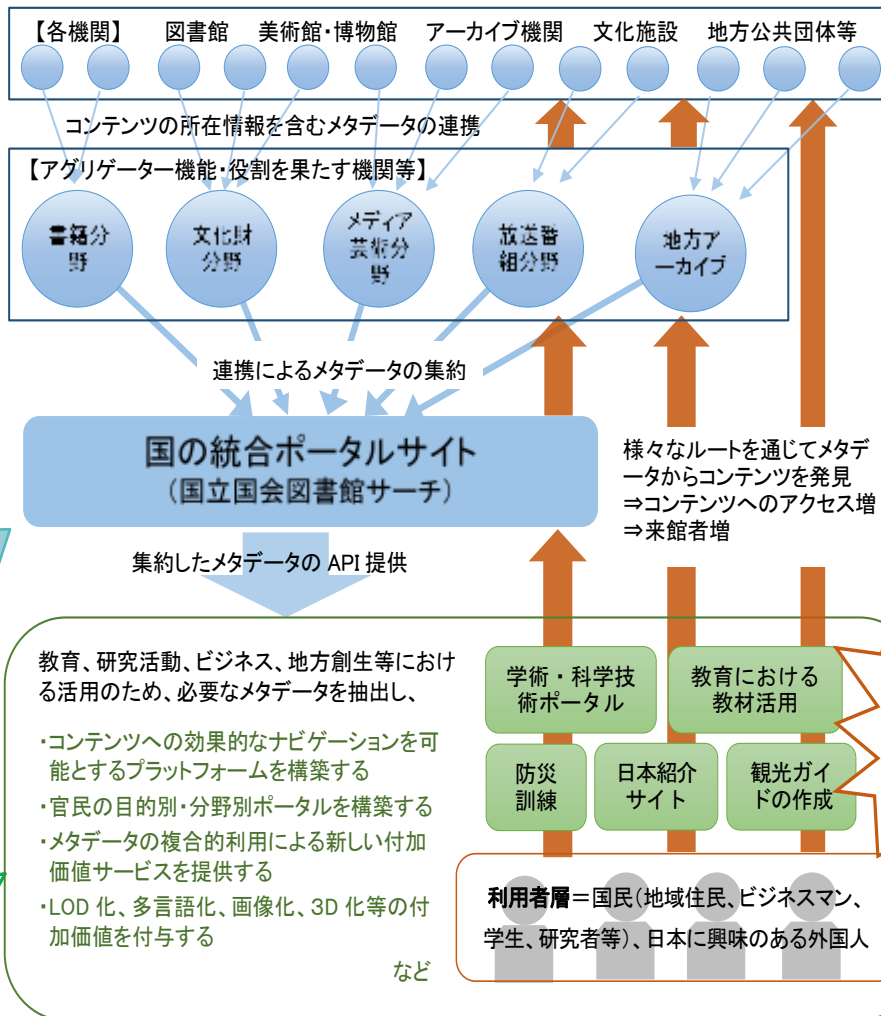
ジャパンサーチ（仮称）

= EuropeanaやDPLAと同様、世界に向けて我が国のメタデータを流通・発信できるものへ

= 多様な分野のコンテンツへのアクセス、所蔵館情報をわかりやすく伝えるものへ
= メタデータの活用がしやすいものへ

メタデータの活用

= 利活用事例：NDL東日本大震災アーカイブ等
= 付加価値サービスの検討



2020年までの提供を目指して、**基盤整備と連携拡充が必要**

(図の出典)
「知的財産推進計画2016 概要」より

国立国会図書館サーチの連携（大学図書館を例に）

国立国会図書館サーチ（NDLサーチ）

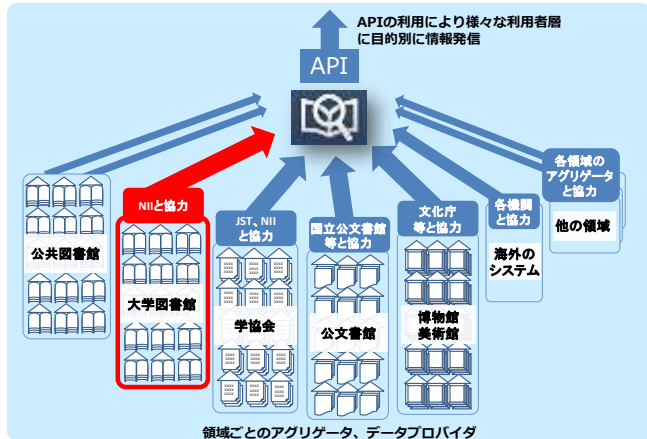
<http://iss.ndl.go.jp/>

- ・日本のデジタル情報資源へ案内する情報探索システム
- ・図書館、公文書館、博物館、学術機関等の各種のデータベースと連携し**統合検索**を実現

国立国会図書館サーチ連携拡張に係る実施計画

<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/9207570>

- ・平成27年3月策定・4月公開
- ・各種機関・システムとの連携の方向性・目標を提示



大学図書館関係の実施事項

【デジタルアーカイブ】

- **API** を実装しているデジタルアーカイブとの連携を優先。
- 平成27年度末時点で15大学と連携実施済み。
⇒ **5年後には、25大学との連携を実現。**
⇒ 最終的には、**全てのデジタルアーカイブと連携へ。**

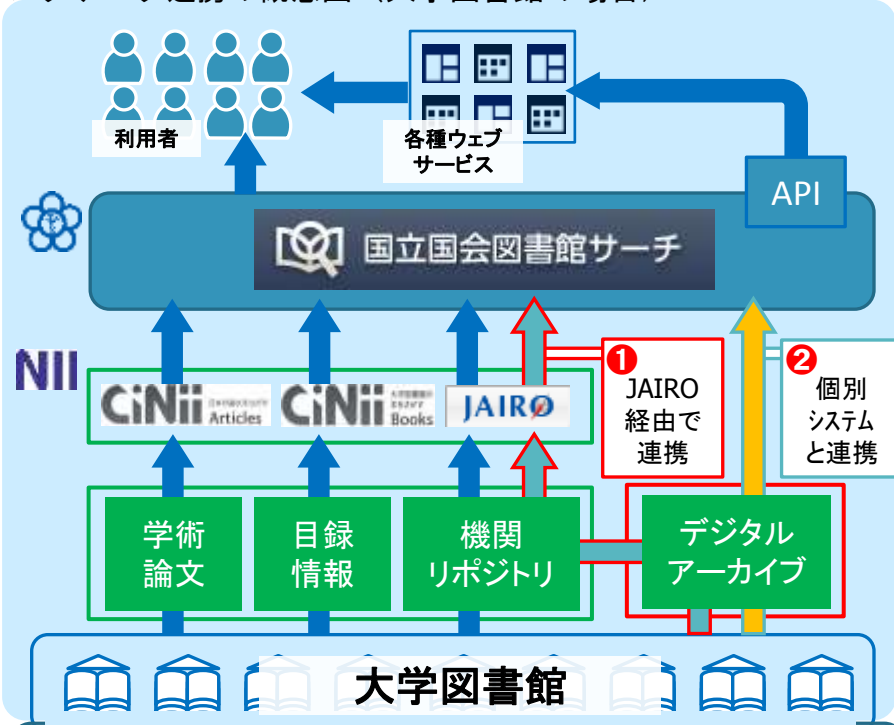
【機関リポジトリ】

- 国立情報学研究所（NII）との協力により、集約して検索可能化。連携拡張もNIIとの協力で効率的に進める。

デジタルアーカイブと国立国会図書館サーチの連携

- ① デジタルアーカイブのコンテンツを**機関リポジトリ**に登載することで、**JAIRO**経由で即座に**NDLサーチと連携**が可能
 - ② 個別連携も可能 ※システムへのAPIの実装等が前提
➤ **多様な経路**からデジタルアーカイブへのアクセスが可能に
- ・ 詳細・お問い合わせ：<http://iss.ndl.go.jp/information/renkei/>

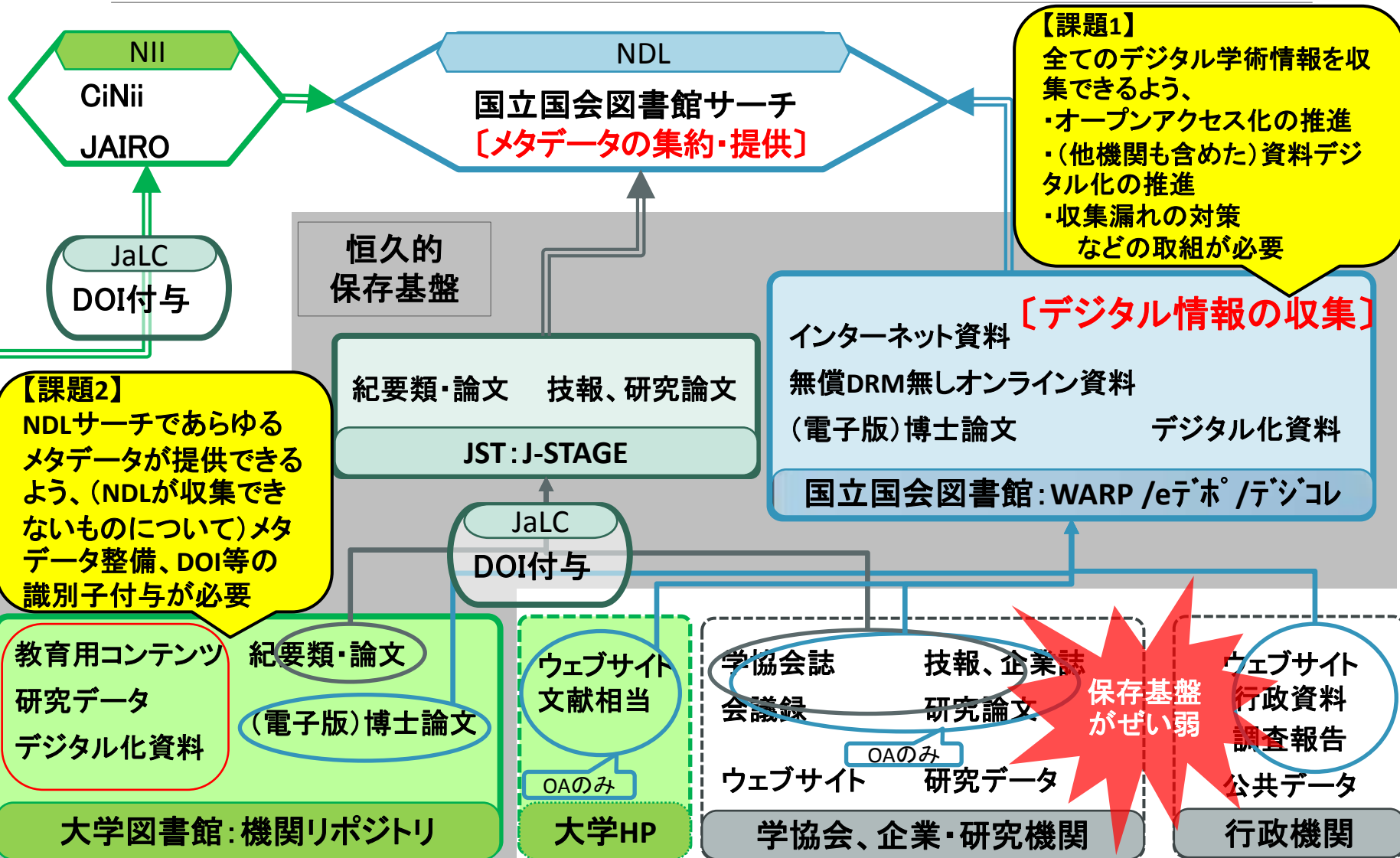
メタデータ連携の概念図（大学図書館の場合）



連携中のデジタルアーカイブの例：

- JAIRO経由：
- ・ 京都大学電子図書館貴重資料画像
 - ・ 一橋大学附属図書館デジタルアーカイブ事業
- 個別連携：
- ・ 慶應義塾写真データベース
 - ・ 神戸大学附属図書館新聞記事文庫

国立国会図書館サーチの持つ役割 (JAIRO, J-STAGEなどを例に)



インターネット資料収集保存事業（WARP）の役割

2002年より、日本国内のウェブサイトを検査して保存しています。ウェブサイトに掲載された情報は、頻りに更新・削除されるため、過去の情報が失われていきます。これらをいつでも見ることができるよう、収集・保存して未来に伝えていくのが、WARPの役割です。

- ・ 制度による収集（国の機関等）
- ・ 許諾による収集（私立大学やイベント等）

<http://warp.da.ndl.go.jp/>

保存日をクリックすると、その当時のウェブサイトが見られる

執筆した論文も
発表したパワポも
閲覧可能

WARPに保存された、過去のHPに掲載されたデータにDOIを付けることで、検索可能に！ 研究データが潜んでいるかもしれない！

おわりに～ 国立国会図書館は研究データを集めているの？～

本草綱目草稿＜重要文化財＞

DOI: 10.11501/1287108)

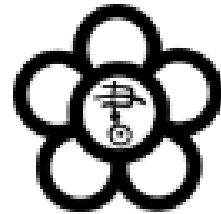
このような
デジタル化画像
も研究データ



資料にはこのような腊葉
も含まれる

江戸の本草学者 小野蘭山（1729-1810）が、講義のために自筆で記した覚書であろうと言われている。本草綱目は、明の万歴24年（1596年）に刊行された中国の本草学史上を画する書籍で、江戸時代の本草学の基礎となった。この覚書と言われる草稿は、翻訳ではなく、本草綱目の項目に従って、動植物の形状や日本における名称、方言などについて記されている。

⇒現在、インターネット公開。100年前の研究成果が今に残り、永続的に！！



ご清聴ありがとうございました